

急ぎ過ぎだよ 人類は。

ゆるやかなネットワークを目指す

ITより
逢いてエ

雑報 縄文

いろんな考えがあるから面白い
いろんな人がいるから楽しい

No. 692

2024年12月

増
刊

編集・発行 鈴木厚正

〒266-0005 千葉県緑区菅田町2-21-359

T&F 043-291-2917

も・く・じ

- | | |
|------------------|----|
| ・ 神山弁護士が届いた訴状 | 2 |
| ・ ゆうちょう銀行を提訴しました | 3 |
| ・ 「成瀬は天下を取りにいく」他 | 4 |
| ・ お便りから | 8 |
| ・ 久しぶりのハッ場ダム | 12 |
| ・ ハッ場ダム見学会 | 13 |
| ・ 山仕事(11月、大平) | 16 |
| ・ 花巻 大沢温泉 | 18 |
| ・ 湯の小屋温泉 | 21 |
| ・ 食料米と食料安保の要に | 22 |
| ・ 原発の新增設 国民負担に? | 23 |
| ・ グラウト。 | 24 |
| ・ 選挙とSNS | 25 |
| ・ ケ・い・じ・ばん | 26 |



ほう
酔う
木
降る
山頭火

泉ゆきを『心はいつも山頭火』
(日本習字普及協会)

11月28日 現在の
会員数183名

メール配信をご希望の方は、

suzukikosei.san@gmail.com へ。

三宅伊都子さんが
対応して下さいます。

題 字 故 佐村隆英和尚(千葉県長柄町本光寺住職)
カ ッ ト 故 泉ゆきをさん(にっぽん箱絵の会会長)

印刷機 リソグラフ RZ 330

※この号の切手は 花の彩り。

山仕事(11月、大平)

11月13日(火). 快晴。暑からず寒からず、山仕事にも快適な日和り。

教地駅で正士、スミ、若林さんに迎えられ、まずは深澤明男・富士代さんの豊田農場へ。明日売り出すというミカンを味見させてもらった上、沢山いただく。感謝。近年、深澤さんのミカンの評価が高く、常連の康江さん・山崎さんも入手に苦労している。

買物から帰り、竹中さんとも加わりヨザ(正士さんのそばの斜面)に残った草を刈る。

いつものように、康江さんとスミさんが用意してくれた夕食は、

(夕) 刺身(本マグロ、ブリ)、山芋の千切りを酢醤油で、アスパラ菜のお浸し、竹中さんの竹の子とレンコンのひり辛炒め、ブリ大根とコンニャク、そして、大根葉と桜エビの塩にひき。

お母さんも一緒に頂く。食後、久しぶりに原田さんのケーナで、お母さんも歌える歌を合唱。

この夜、母屋で寝袋にくるまる。11月半ばというのに、なんと蚊に刺された。

11月14日(水)。くもり。朝、青山さんが次郎柿を沢山持ってきてくれた。

いつもは、三日間のまんなかに水室の昔乙女がご馳走を持って来てくれるのだが、いろいろ用事があるのだろう。

この日は、坂上利子さん方の畑・柿園・家まわりの草刈り。山崎さんは午後からで、4人。それでも、竹中さんのハンマー・ナイフモアの威力もあって午前中に終る。坂上さんから「これからはお願いします」とのお言葉が。

(昼) カボチャピザ、ポテトサラダ、野菜スープ、マイタケのから揚げにカボチャと柿のキッシュ。

午後は二手に別れる。原田さんは啓史さんと茶園の整枝。もう一方は、昼に到着した山崎さん、杉浦さんに若林さんとぼくの4人で、東垂れのワラビ園とツツジまわりの草刈り。どちらもかなりの作業量だが、ほぼ同時に終了。

夕方、「あらたまの湯」に行く皆さんと別れ、ぼくはTVで相撲見物。

(夕) 肉じゃが、サバの立田揚げ、カブと柿の酢の物、ホウレンソウのゴマ和え、竹の子とレンコンのきんぴら煮、杉浦さん提供のアオリイカの刺身とゲソのユズ味噌和え。お母さん、啓史さん、青山さんと一緒にいただく。

内田美智子さんから、今回は最中をいただいた。いつもありがとうございます。

～ 内田さんからのお便り ～

◇ 正士さん、みなさん、私は淡路島に行ったことがありません。生きていこうちに行けな気がします。

12月の飯田線をめぐる旅に行けたら、とてもラッキーだと思います。

本の中で一番好きなのは、リンドグレンの『さすらいの孤児 ラスカル』です。孤児院を逃げだした9歳の男の子ラスカルが、お父さんお母さんになってくれる人を探してはだしてさすらいます。

数年前、リンドグレン女史の生涯を描いた映画もありました。苦しみのもとに平和がやってきました。

川越には川がたくさんあり、田んぼもたくさんあります。11月3日、かわつるはつかり団地のそばの水鳥のさと公園の池のシラサギ17羽が、一斉に空に舞い上がり、すてきなけしきを見せてくれました。

食後、啓史さんと今後について話し合いました。前回よりもやわらかく、一歩前を向いた話し合いとなりました。もとより、正士さんと同じ対応は期待できませんが、家を守るという意志が感じられ、そこに猫の手がお手伝いする余地もありそうでした。さらにこの後、話し合いが重ねられるものと思われれます。

11月15日(金)、曇り。夜の雨は上がったが、ツツジ園は水滴が一杯と思われ、作業を取りやめて急遽早帰りとなりました。

杉浦さんと若林さんの車で掛川まで送ってもらい、帰宅。おかげで雑報の発行が一日早まりました。